

全国社会福祉協議会が先に発行した「全国ボランティア活動者実態調査」報告書(平成13年12月31日現在)、「ボランティア活動年報2001年」をもとに、ボランティア活動者の現状を問題集にまとめました。

活動者の特徴から活動内容、活動者はどのような支援を望み、どんな支援機関を利用しているのかなど、ボランティア活動者の現状がとらえにわかる設問がそろっています。

さて、あなたは一体どれくらい答えられますか。さっそくチャレンジしてみましょう。

特集

ボランティアの 今を知る20問

2002年版

全国で活動するボランティア人数

- Q1.平成13年4月現在で、全国の社協Vセンターが把握しているボランティア団体数は、約()万()団体、ボランティア総人数は約()万人である。ボランティア総人数については、調査が始まった昭和55年から22年間で、約()倍に増えている。

個人の活動者プロフィール

- Q2.個人のV活動者の多くは、仕事をもっていない(ア)や(イ)が主力となっている。
- Q3.活動年数は(1.短期化 2.長期化)しており、新規参加者がかつてより(1.増えて 2.減って)いる。また、同じ活動を継続して行っている人が(1.少ない 2.多い)。

メンバーについて

- Q7.グループ立ち上げ時には、「()機関や()機関の呼びかけで集まった人たち」や、「()や()で学んだ仲間」がメンバーである場合が多い。メンバーの中では、()主婦と()代以上の()の活躍が目立っている。
- Q8.「1年前と比較してメンバー数が増えている」団体・グループは()%で、この割合は、前回調査から大幅に(1.増大 2.減少)している。

代表者のプロフィール

- Q4.団体・グループの代表者には、(1.40代以上 2.50代以上 3.60代以上)の(1.男性 2.女性)が多い。
- Q5.職種別に見ると、(ア)や(イ)の人が多く。(ア)の中では、これまでにフルタイムで働いた職業経験のある女性が多くなっている。
- Q6.代表者の就任年数が(1.短期化 2.長期化)している。「5年以上活動している団体・グループ」のうち、「5~10年未満」の活動年数の団体・グループでは()%が現代表の()型となっている。

活動内容について

- Q9.全国社会福祉協議会では、活動内容を(ア)(イ)(ウ)(エ)およびこれらの混合型の類型を設定して調査を行った結果、「(エ)の活動と、(ア)・(イ)・(ウ)のうちのいずれかを行っている」団体・グループが多くなっている。(ア)(イ)(ウ)(エ)の各々を単独で行っている団体・グループと、複数の活動を行っている混合型の団体・グループはほぼ同じ割合であった。

支援機関の利用

- Q15.V活動を支援する機関を「利用している」団体・グループが()%、「利用していない」団体・グループは()%で、利用している団体・グループが圧倒的に多い。
- Q16.支援サービスの提供機関で最も利用されているのは()で、最も期待されている支援サービスは()である。

月間平均V活動時間の国際比較

- Q18.一人あたりの月間平均活動時間数を国別に見てみると、()は15.4時間、()は17.4時間、日本は()時間で、()が最も活動時間が多い。

- Q10.テーマ・オリエンテッド型では、()、()・()、()の継承や()の普及をテーマに活動している団体・グループが多い。

- Q11.活動対象では、()や()、()やその家族が多い。また、具体的な活動内容は、「交流・遊び」「話し相手」「()・()サービス」「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」「()・()」等のコミュニケーションの支援が多くなっている。

団体の活動予算について

- Q12.年間予算規模が(1.1.5万円 2.2.0万円 3.3.0万円)未満の団体が()割と、小規模な予算規模の団体が多い。
- Q13.収入源は、()・()が主な収入源である割合が高く、「活動の一環型団体・グループ」では()の割合が多い。
- Q14.現在の年間予算額は、「現在の活動にとって十分な額である」と考えている団体は約()割であり、「やや不足している」あるいは「かなり不足している」と考えている団体も約()割となっている。

社会的支援への要望

- Q17.活動に対する社会的支援への要望は、「活動に必要な知識や技術の()」「活動者同士の()」「活動や研修に必要な()」「活動に対する社会的な()」が求められている。また、「活動の経験が社会的な()につながること」への要望は、()代~()代の(1.若い 2.高い)世代や、()・()・()に勤務する人に多くなっている。

Vセンター設置数とVコーディネーター配置人数の推移

- Q19.Vセンターを設置している市区町村社協は、1989(平成元)年に()カ所だったものが、2001(平成13)年には()カ所と約()倍になっている。
- Q20.また、市区町村社協に配置されているVコーディネーターの人数は1989(平成元)年に()人だったものが、2001(平成13)年には()人と約()倍になっている。

解答と解説

A1. 約9万8,000団体 約722万人 約4.5倍

【解説】平成13年4月現在の社会福祉協議会が把握するV活動団体の把握数は9万7,648団体、活動者人数では721万9,147人となっている。

A2. 主婦 定年退職者

【解説】「主婦(仕事をもっていない方)」が38.1%、「定年退職後の方」が24.5%。

A3. 2.長期化 2.減っている 2.多い

【解説】活動年数を統計で見ると、「5~10年未満」が30.5%、「10~15年未満」が18.1%、「20年以上」が13.8%、「3~5年未満」が13.1%、「3年未満」が11.7%、「15~20年未満」が11.8%。前回調査では「5年未満」が35.6%であったが、今回調査では24.8%と減少しているのに対し、「5~10年未満」については、前回の25.5%から30.5%、「10年以上」では38.8%から43.7%とどちらも若干増加している。このように、社会福祉協議会に登録しているボランティアの活動年数は長期化の傾向にあり、新しく活動を始めた人や活動年数の浅い人が少なくなっている。

活動歴では、「現在行っている活動をずっと続けてきた」と答えた人が64.5%、「現在行っている活動以外にも、これまでいろいろな活動をしてきた」人が31.9%。V活動者の多くは同じ活動を継続しているが、いろいろな活動を経験してきた人も一定割合いる。また、「複数の分野、あるいは複数の機関・団体で活動を行っている」と答えた人が44.5%、「ある特定の分野、あるいは特定の機関・団体で、一つの活動を行っている」は29.2%、「属している団体・グループや活動先は1カ所だが、そこでいろいろな活動を行っている」は23.6%。1つの活動だけではなく、複数のV活動を行っている人が多い。

A4. 3.60代以上 2.女性

【解説】代表者の年齢は「60代以上」が49.0%、「50代」が26.3%、性別は「女性」の代表者が69.1%、「男性」の代表者は23.6%となっている。

A5. 主婦 定年退職者

【解説】「これまでにフルタイムで働いた経験がある」主婦が22.5%、「定年退職後」の人が18.5%、「これまでにフルタイムで働いた経験はない」主婦が13.9%。また、100人以上のメンバー規模の団体・グループでは、「定年退職後」の代表者の割合が34.8%と高く、代わって、「これまでにフルタイムで働いた経験はない」主婦の代表者が3.7%と低くなっている。

A6. 2.長期化 54.0% 長期継続

【解説】代表者の就任年数は、「5~10年未満」が23.6%、「3~5年未満」が18.6%、「2年未満」が18.1%。一方、「10~15年未満」が12.0%、「15年以上」が8.0%となっており、合計で20.0%の団体・グループで代表者の就任年数が10年以上の長期にわたっている。前回調査の代表者の就任年数は大半が10年未満であり、代表者の就任年数が長期にわたっている。

A7. V活動の推進機関や受け入れ機関 研修や講座 子どもの手を離れた主婦 60代以上の女性

【解説】団体・グループを立ち上げたメンバーの共通点は、「V活動を推進、受け入れる機関の呼びかけで集まった人たち」が24.8%、「ある研修や講座で学んだ仲間」が22.4%となっている。メンバー構成は、「子どもの手を離れた主婦」が58.0%、「60代以上の女性」が56.8%で、ともに半数を超えておりメンバーの主力となっていることがわかる。

A8. 27.0% 減少

【解説】1年前と比較して、メンバー数は「変わらない」と答えた団体・グループが48.3%、「増えている」が27.0%、「減っている」が19.8%、前回調査では1年前より「増えている」と答えた団体が、40.1%に達しており、今回調査ではメンバー数を増やしている団体が減少している。

A9. ア.対人直接サービス イ.交流 ウ.支援活動 エ.テーマ・オリエンテッド

A10. まちづくり 環境保全・自然保護 伝統文化 芸術

A11. 高齢者や介護者 障害児・障害者 配食・会食サービス 手話・点訳・朗読

【解説】活動対象者は、「高齢者や介護者」が55.2%、「障害児・障害者やその家族」が52.5%、「子ども」が18.8%。活動内容は、「交流・遊び」が46.2%、「話し相手」が37.2%、「配食・会食サービス」および「趣味・レクリエーション活動への支援・指導」が各々26.4%、「手話・点訳・朗読等のコミュニケーションの支援」が25.1%、「掃除や作業の手伝い」が18.8%、「外出の手伝い、移送サービス」が18.5%となっている。

A12. 2.20万円未満 6割

【解説】「5万円未満」が26.4%、「5~10万円未満」が17.5%、「10~20万円未満」が15.5%となっており、年間予算が小規模な団体・グループが多い。なお、「特に予算規模は把握していない」と答えた団体・グループは10.3%いた。

A13. 助成金・補助金 会費

【解説】主な収入源は、「毎年決まって交付される助成金・補助金」が37.8%、「会費」が29.2%で、全体の7割近くを占めている。

A14. 約5割

【解説】「現在の活動にとって十分な額であり、不足感はない」と答えた団体・グループが45.6%、「現在の活動を行うには資金がやや不足している」が34.8%、「現在の活動を行うには資金がかなり不足している」が11.2%で、不足感のある・なしはどちらも半数となっている。

A15. 75.0% 22.2%

A16. 社会福祉協議会 活動費等の助成

【解説】支援サービスの提供機関では、「社会福祉協議会」が88.6%、「行政機関のV活動支援部署」が13.7%、「V協会」が10.9%で、「活動費等の助成」、「事務所や活動拠点の提供」、「活動に関する相談」、「活動に関連する研修機会の提供」、「活動に必要な備品や機器の貸与・提供」、「V募集への協力」、「助成金に関する情報提供」など、幅広い支援サービスが利用されている。

A17. 研修 交流機会 経費の援助 理解 資格取得 20代~30代

1.若い 企業・官公庁・自治体
 【解説】要望する社会的支援では、「活動に必要な知識や技術を研修できる機会があること」が43.7%、「活動者同士の交流機会」が40.2%、「活動や研修に必要な経費の援助」が35.3%、「活動に対する社会的な理解」が33.5%。「活動の経験が社会的な資格取得につながることを望む人は、「20代」や「30代」で他の世代よりも高くなっている。同様に、「活動の経験が、進学・就職時に評価されること」を望む人も「20代」で高くなっているなど、若い世代では、V活動の経験が今後の自分の進路にとってなんらかの役に立つことを望んでいる。

A18. アメリカ イギリス 21.7時間 日本

【解説】調査時点は、アメリカが2000年、イギリスが1997年、日本が2001年の統計によるもの。

A19. 1,275カ所 3,109カ所 約2.4倍

A20. 1,034人 3,196人 約3.2倍

【解説】Vセンター設置数とVコーディネーター配置人数の推移は以下のとおり。

